

# 地域社会学会会報

No.229 2022.9.27

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies  
〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部  
松宮朝研究室内

TEL 0561-76-8706(直) FAX 0561-64-1107 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728  
E-mail [jarcs.office@gmail.com](mailto:jarcs.office@gmail.com) URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

## ◆…………… 〈 会報 229 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 第 1 回研究例会の批評論文は「地域社会学会ジャーナル」No.7 (WEB 版) に掲載されます。
- 2) 2022 年度の会費未納入の方は、納入をお願いします。詳細は 6 ページをご覧ください。

## 目 次

- 10 月 15 日 (土) 開催の第 2 回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い
1. 理事会からの報告
  2. 研究委員会からの報告
  3. 編集委員会からの報告
  4. 国際交流委員会からのお知らせ
  5. 事務局からのお知らせとお願い
  6. 事務局からの報告とお知らせ
  7. 会員異動
  8. 会員の研究成果情報
  9. 理事会のご案内

### 2022 年度 第 2 回研究例会のご案内

日時 2022 年 10 月 15 日 (土) 14:00~17:00

会場 関東学院大学金沢文庫キャンパス K205 教室

(対面と ZOOM によるハイフレックス形式)

※アクセス方法等は、開催 2 日前をめぐりに、会員メーリングリストで配信します。

第 1 報告 清水 洋行 (千葉大学)

「研究委員会からの問題提起：地域社会の流動化と今日的課題」 (仮)

第 2 報告 阪口 毅 (立教大学)

「場所と出来事のコミュニティ研究：新宿・大久保のフィールドワークを振り返る」

※開催時間が、オンライン開催のときと異なりますのでご注意ください。  
※関連文献について、「2. 研究委員会からの報告」を参照してください。

## 10月15日（土）開催の第2回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

### 1. 会場にご参加のみなさま

会 場 : 関東学院大学金沢文庫キャンパス 1号館教室棟 K205  
横浜市金沢区釜利谷南 3-22-1 TEL : 045-786-7179 (代表)

アクセス : 京急本線「金沢文庫駅」西口より京浜急行バス「関東学院大学横浜・金沢文庫キャンパス行」または「野村住宅センター行」に乗車し、いずれも終点で下車。所要時間約13分。下車後、徒歩約3分。

備考 : 会場周辺にはコンビニや飲食店がありません。特に理事の先生方は昼食をご持参くださいますようお願いいたします。



### 2. オンラインでの参加のみなさま

<事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。

◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。

◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。

◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。

◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

◆以下のいずれかの方法でお願いいたします。

①Zoom の「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。

②Zoom のチャットに、質問内容を書き込む

③Zoom のチャットに、質問がある旨を書き込む

<Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて>

◆オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらく Zoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoom での交流時間は設けないこととさせていただきます。

<当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

◇メールアドレス matumiya[アット]ews.aichi-pu.jp [アット]を@にしてください。

◇当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

◆当日の Zoom 操作に関すること以外は、研究委員長（清水洋行、hishimizu [アット] chiba-u.jp）までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

## 1. 理事会からの報告

2022 年度地域社会学会第 1 回理事会は、2022 年 7 月 9 日（土）の 10 時から 12 時まで、オンラインで開催されました。ここでは、審議事項として 7 件が議論されました。

出席（9 名、敬称略）：浅野慎一、清水洋行、高木竜輔、玉野和志、中澤秀雄、町村敬志、松宮朝、丸山真央、吉野英岐

### (1) 理事の役職と推薦理事の選出

未定だった理事の担当、監事、各委員会の非理事委員について、下記の通り決まりました。

- ・社会学系コンソーシアム担当⇒玉野和志会員（東京都立大学）
- ・監事の選任（2 名）⇒早川洋行会員（名古屋学院大学）、丹辺宣彦会員（名古屋大学）
- ・研究委員会：西野淑美会員（東洋大学）、阪口毅会員（立教大学）
- ・国際交流委員会：齊藤麻人会員（横浜国立大学）、鈴木鉄忠会員（東洋大学）、渡邊隼会員（日本大学）

## (2) 2022 年度研究例会の日程について

第3回は12月10日(土)、第4回は2月18日(土)を候補に検討中です。次回理事会(10月15日)に確定し、会員の皆様にご案内いたします。

## (3) 会報の公開方法について

HPでの会報の公開について、会計報告について公開しても問題がないため、会員用のみで一本化してもいいのではという提案があり、承認されました。次号の会報(230号)より、会員異動、会計情報を省略した一般用を廃止し、会員用に一本化します。

## (4) 事務局の外部委託について

前回大会総会で承認された、事務局の外部委託について、現事務局(松宮、松木理事、木田理事)で、業者への見積、具体的な作業の検討を進めることが承認されました。外部委託作業を進めていく上で、相談できる体制として、前事務局の吉野理事、高木理事に随時相談する体制を築くことも確認されました。次回理事会で検討結果を提案し、作業を進めていきます。

その他の内容については、各委員会報告・事務局報告をご覧ください。

(松宮 朝)

## 2. 研究委員会からの報告

去る7月9日(土)に2022年度第1回研究例会がオンラインで開催され、参加者は最大時で49名でした。研究例会の概要は『地域社会学会ジャーナル』第2号の報告論文と批評論文をご参照ください。研究例会の終了後は、昨年度に引き続き、しばらくZoomミーティングをそのまま開き会員の懇談や情報交換の時間をもちました。当日の報告や議論の振り返りを皮切りに、地域社会学の研究やトピックについて自由に意見交換が行なわれました。

研究例会に先立ち、第1回研究委員会を6月21日(火)にオンラインにて開催し、第1回研究例会の進行の確認とジャーナル執筆者、今期の研究テーマ、理事以外の研究委員の候補等について検討しました。理事以外の研究委員について、7月9日の理事会にて阪口毅会員(立教大学)と西野淑美会員(東洋大学)の就任が承認されました。なお、第1回研究委員会の参加者は以下の通りです(敬称略)。小山弘美、高木竜輔、田中里美、前島訓子、清水洋行。

第2回研究委員会を7月26日(火)にオンラインにて開催しました。主に今期の研究テーマと研究例会・シンポジウムの登壇者、ジャーナル執筆者、理事以外の研究委員の候補等について検討しました。研究テーマは「モビリティ」を引き継ぎつつ「流動性」を軸におくこととし、そのうえで関連するテーマやトピックについてアイデア出しを行ないました。ここでの検討にもとづき各委員で準備を進めたうえで、9月に第3回研究委員会を開催することとしました。なお、第2回研究委員会の参加者は以下の通りです(敬称略)。小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、前島訓子、西野淑美、清水洋行。

第2回研究例会は10月15日(土)です。開催方式は、初めての試みとなりますが、対面参加かオンライン参加かを選べるハイフレックス型となります。不慣れな運営となりますが、進行にご協力をお願いできますと幸いです。会場は、研究委員でもある小山会員にお世話いただき、関東学院大学金沢文庫キャンパス(神奈川県横浜市)です。なお、開催時間はコロナ禍前と同じ14時~17時となりますのでご注意ください。

第1報告では、私が研究委員会での議論をふまえつつ、今期の研究テーマにかんして問題提起させていただきます。第2報告は、研究委員の阪口毅会員にご自身の研究成果について報告させていただきます。関連文献は下記の通りです。

阪口毅、2022『流れゆく者たちのコミュニティ——新宿・大久保と『集合的な出来事』のエスノグラフィ』ナカニシヤ出版

阪口毅、2021「『地域/コミュニティ』」概念を再考する——移動性の観点から『現代の社会病理』36

みなさまのご参加をお待ちしています。

(清水 洋行)

### 3. 編集委員会からの報告

本年度第1回編集委員会を7月4日に、第2回編集委員会を7月30日に開催しました。年報35集の編集作業の手順やスケジュールの確認、書評対象図書や執筆者の選定に関する検討を行いました。

さて年報第35集(2023年5月発行予定)の原稿を募集します。下記の要領にしたがって募集しますので、積極的な投稿をお願いします。自由投稿論文については、他のカテゴリーの原稿に比べて締め切りが早くなっています。〈ビューポイント〉〈名著再発見〉〈研究紹介〉のコーナーについても、投稿をお待ちしています。なお、35集から投稿規定が変更になり、電子ファイルでのみの提出になります(郵送での提出は不要です)。投稿規定・執筆要領・著作権規定をご確認のうえ、ご提出してください。

〈年報第35集原稿募集要領〉

1. 自由投稿論文: タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて、年報掲載時に14ページ以内(1ページは41字×38行で1,558字)に収まるものとします。編集上必要なデッドスペースを差し引いて、上限字数は21,402字(41字×522行)です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。なお英文要旨は掲載決定後に300語以内で作成します。自由投稿論文の締め切りは、2022年9月30日(金)必着です。
2. 書評(依頼) / 自著・自訳書・編著書紹介(依頼) / 研究紹介: タイトル・執筆者氏名・本文を含めて年報掲載時に2ページ以内となる2,870字(41字×70行)に収まるものとします。
3. ビューポイント / 名著再発見: タイトル・執筆者氏名・本文を含めて年報掲載時に4ページ以内となる5,986字(41字×146行)に収まるものとします。2および3の原稿の締め切りは、2022年10月31日(月)です。
4. 原稿は、Eメールの添付ファイルにて電子ファイルでご提出ください。原稿提出時には、別紙に氏名・住所・電話番号・電子メールアドレスを明記してください。
5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。この点、くれぐれもご注意ください。
6. また自由投稿論文については300語程度の英文要旨を掲載することになります。英文要旨は、編集委員会で論文審査が終了した後、提出していただきます。英文校閲は、編集委員会で行う予定です。
7. 原稿の提出先 送付先: 〒430-8533 静岡県浜松市中区中央2-1-1 静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科 船戸修一 気付 Email: s-funa[at]suac.ac.jp ←[at]を@に変えてください。  
(船戸 修一)

### 4. 国際交流委員会からのお知らせ

前期からの留任で国際交流委員長を務めることになりました中澤秀雄(上智大学)です。よろしくお願いたします。今期の委員会は、前期から留任いただく齊藤麻人(横浜国立大学)先生に加えて、新たに2名の先生に加わっていただくことになりました。鈴木鉄忠(東洋大学)、渡邊隼(日本大学)です。地域社会学ジャーナルに連載しているコーナーの編集のほか、とくに若手の国際発信サポートのためにどんな基盤整備が可能か、検討して参りたいと存じます。会員の皆様へのお知らせとして、2023年6月25日から7月1日までオーストラリアのブリスベンで開催されるISA World Congress of Sociology 第20回大会のAbstract Submissionが7月1日より開始しております(当然、RC21も含みます)。アブストラクト送付の締切は9月30日までとなっております。詳細は以下のURLをご覧ください。

<https://www.isa-sociology.org/en/conferences/world-congress/melbourne-2023/deadlines-2023>

また、以前にもお知らせしたISA-RC21の2022年度年次大会はアテネで8月24-26日、対面で実施される予定です。既に報告申込は締め切られておりますので、今から参加する場合には傍聴だけということになりますが、ご興味がおありの方は以下のサイトをご覧ください。

<https://pcoconvin.eventsair.com/rc21/>

(中澤 秀雄)

## 5. 事務局からの報告

### (1) 会費納入状況

2022年7月8日時点の会員は382名（一般345名、院生23名、終身14名）で、2021年度の会費納入率は92.7%（今年度の会費納入対象者368人中341人が納入済み）でした。

今年度までの4年以上滞納者は6名おり、会員資格喪失について審議事項になります。そのほか、3年滞納者は現時点では6名です。なお2年未納者は19名です。

### (2) 会報228号・ジャーナルNo.6の発行

庶務担当理事から学会HP上で会報228号とジャーナルNo.6が発行されました。

### (3) 事務局業務の外部委託化について

事務局より業務の作業の軽減化を図るため、会費徴収・名簿作成の外部委託の導入にむけて本格的に作業を開始するための外部委託化について、前回総会にて承認されました。今後の理事会で検討を進めて参ります。

(松宮 朝)

## 6. 事務局からのお願いとお知らせ

### (1) 2022年度会費納入のお願い

2022年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願ひします。郵送された払込用紙のない方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号(00150-2-790728)、加入者名(地域社会学会)、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2022年度会費」を明記の上、会費(一般会員6,500円、院生会員5,000円)のご送金をお願いします。2022年度分の会費の振込確認ができた会員には、『地域社会学会年報』第34集をお送りします。

### (2) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2021年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙(地域社会学会WEBサイトからダウンロードできます)の情報を、事務局宛のメール(あるいはファックス)でお送りください。ご協力よろしくお願いします。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願いいたします。

(松宮 朝)

## 7. 会員異動(敬称略)

## 8. 会員の研究成果情報(2021年~2022年)

情報提供なし

## 9. 理事会のご案内

第3回理事会

日時 10月15日(土) 10:30~12:30

関東学院大学金沢文庫キャンパス K205 教室

(対面とZOOMによるハイフレックス形式)